

Ⅲ 健康危機管理

感染症情報センターでは、健康危機管理の観点から危機管理体制の構築及び危機管理機能の充実を図っている。ここでは、本年度実施した平常時からの情報センターの活動及び患者発生時の対応についてその概要を報告する。

1 新型コロナウイルス感染症への対応

令和元年 12 月に中華人民共和国湖北省で発生した原因不明の非定型肺炎はほどなくその原因病原体が新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)と特定され、本ウイルス感染症は COVID-19 と命名された。令和 2 年に入り欧州、欧米をはじめとする世界各地への流行の拡大や死者数の増加等から世界保健機関(WHO)は 3 月 11 日新型コロナウイルス感染症をパンデミック(世界的な大流行)とみなせると表明した。

日本では 2 月 1 日に新型コロナウイルス感染症が指定感染症となり、医療体制、検査体制、疫学調査等の整備が早急に進められた。厚生労働省は事務連絡「新型コロナウイルスに関する検査対応について」(令和 2 年 1 月 23 日)を発出し、国立感染症研究所により検査用プライマー/プローブセット、陽性対照が全国自治体の地方衛生研究所等に配布された。検査実施機関は、当初、国立感染症研究所や検疫所、全国自治体の衛生研究所等に限られていたが、その後大学病院や民間検査施設も加わった。

当所においても国立感染症研究所の病原体検出マニュアルに基づき、検査用プライマー等試薬、陽性対照を受領後、早急に PCR 法及びリアルタイム RT-PCR 法による検査系の検証を実施し、1 月末日より県内発生の疑い症例検体の検査を開始した。検査開始後 3 月に至るまで検査検体は日に日に増加し、2 月 176 検体(120 症例)、3 月 930 検体(771 症例)となった(退院のための陰性確認検査を除く)。また検査検体数(症例数)及び陽性検体数(症例数)を日毎集計し、県庁への当日報告と厚生労働省への翌日報告を定常業務として行った。

これらの検査数の増加や事務量の増大に対応しつつ、迅速、正確な検査結果報告を継続するため、また更に今後の検体数の増加に備えるため、人員面では検査業務及び検体受付等事務業務の応援員を全所から収集し、機器面ではリアルタイム PCR 装置を追加設置した。それにより検査体制は強化され、恒常的な 1 日あたりの検査可能検体数は、検査開始当初の 48 から 3 月末には 72 となった。

新型コロナウイルス感染症の流行は本年度末時点で国内でも世界的にも終息を見ず、来年度以降も警戒と検査等の迅速な対応が必要である。

2 鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ発生時の対応

中国における鳥インフルエンザH7N9亜型のヒト感染例の発生報告数は平成28年10月～平成29年9月の第5波以降は数名に留まり、最終報告例は平成31年3月に内モンゴルで発生した1症例となっている(令和2年3月時点)。一方、H5N1亜型のヒト感染例は平成30年の患者発生は報告されていないが、令和元年4月にネパールで発生した1症例が報告されている。この他の亜型の鳥インフルエンザウイルスの人への感染(4類感染症となる)では、令和2年3月に中国広東省でH9N2亜型感染による1症例が報告されている。

当所では、鳥インフルエンザウイルス及び新型インフルエンザ患者(疑い含む)発生の際の対応の準備として、平成30年度は検体受付と検査手順の確認、検査の信頼性確保の確認、陽性結果が出た場合の国立感染症研究所への検体搬送体制の確認を例年と同様に行った他、特に全所的に県業務継続計画に基づき、新型インフルエンザ検査担当者を新たに数名指定し、検査対応研修を実施した。令和元年度は、検体搬送訓練を実施した(12月)。この訓練では、当所の搬送マニュアルに基づき国立感染症研究所村山庁舎への疑似検体搬送を搬送車の実走によりシミュレーションした。事故遭遇等の想定も加味したため、実践力の醸成に有用な訓練となった。

3 麻しん・風しん患者の増加・集積への対応

令和元年の国内の麻しん患者届出数は745例となり、平成21年以降では最多となった。当所での麻しんの検査検体数及び陽性例数もこれまでの年間最高数を記録した。検査検体数は特に2月～10月で多く、11月以降は減少している。一方、風しんは9月以降検体数が減少している(Ⅰ概要3業務の概要(3)ウイルス担当 a.感染症発生動向調査事業参照)。両疾患とも感染拡大防止のため、遺伝子検査による迅速な確定診断が必要な疾患であるため、当所では検査担当当番体制を組み、休日、時間外を含め迅速に検査結果を関係機関へ連絡することに努めた。また、遺伝子検査により麻しんまたは風しん感染が確定された場合には、検出ウイルスの遺伝子型別を行い、保健医療政策課、保健所等に疫学情報として型別結果を提供した。

一方、検査の信頼性確保のため、内部精度管理検査を徹底した。さらに厚生労働省による麻しんウイルス及び風しんウイルスのヌクレオチドシーケンスによる遺伝子型別検査の外部精度管理調査に参加し、適正に検査が実施されている旨の評価を得た。